

一茶ゆかりの里四季の俳句会（平成二十七年度一〜三月分）

選者 高山俳壇 松本孝夫先生

特選 天雪深し偲ぶ一茶の裏表

愛知県 都築英之

名高い一茶、生涯を苦難に生きつつ其の有様がありありと俳句に残されている。作者は一茶の裏表を理解され、自身の思いが込められている。

特選 地 初日記まずは一句を記しておく

愛知県 平野辰美

日記は自分の物、俳句も自分の物、俳句を日記代わりにすると、字数が少なく簡単であり、明確である。

特選 人 年重ね香り恋しき路のとう

群馬県 竹渕洋子

年を重ねるにしたがい、体力が低下し動くことも出来ない。目の前の路のとうの香りに若いころの思いが甦る。

入選 長命の系図あやかり神参り

群馬県 土屋はじめ

入選 地に光るあれよと見れば草氷柱

群馬県 滝沢照香

入選 郷言葉受話器にはずみあたたかし

群馬県 田村洋子

入選 春炬燵出るに出られず昼が過ぎ

群馬県 山口岩美

入選 スーパーより雪の下こそ路のとう

群馬県 岸 保弘